

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590200085		
法人名	株式会社 芳栄		
事業所名	グループホーム 和み(しらかみ棟)		
所在地	秋田県能代市二ツ井町飛根字高清水265番地		
自己評価作成日	令和元年9月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和元年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園地帯の立地を活かし四季を身近に感じて生活できるように敷地内での畑、花壇作り、周辺の散歩、地区の行事参加等行っています。また個々に合わせて居室の掃除、食事の下ごしらえ、リネン交換等無理なく出来る範囲で、家庭的な生活が送られるようなケアを行っています。そしてご家族との信頼関係を築けるように毎月初めに入居者様の近況報告、コメント付きの写真、「和みだより」(日常の様子をお伝えしたく開設以来「和みだより」の発行を続けている)を送付しています。またご家族の希望があり主治医の協力が得られる場合は最期まで一緒に過ごす看取りの介護もしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

窓から見える景色は開放的で、稲の成長が四季折々のうつろいを見せ、美しい田んぼの風景が広がっている。地域住民から野菜等をいただいたり、地区の運動会やRUN伴に参加したり、お祭りは敷地内で演舞披露できるように開放し、地域住民を招く等、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう交流を深めている。なごみだよりは家族との信頼を築く第一歩であると認識し、取り組み状況や活動内容を伝える手立てとして、見やすい構成と充実した内容となっている。生活の延長線上に看取りがあると考え、職員がその人のために何が出来るかを追求し、一人ひとりのケアに丁寧に携わっている。デスカンファレンスでは写真を見ながら、思い出を語り、家族のグリーフケアにもつながっている。音楽療法士が毎月音楽を通じて、心身の活動の活性化につながるよう専門的な見地から関わり続け、今では5年目になる。今年度より働き方改革を導入し、職員のニーズに対応できるよう働きやすい勤務形態を導入した。介護人材が不足している昨今、グループホーム和みでは勤続年数10年の職員が多数在籍しており、働く意欲や能力を発揮できる環境にある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも目に付くように玄関、ホール、事務室に貼り、黙読している。職員会議の場でも全員で再確認している。	開設当初社長が作り上げた理念を、より具体的に実践出来るように、今年度より年間目標とユニット毎の月間目標を掲げ、掲示している。利用者に関わる際、意識し取り組むことで達成できる内容にしようと職員で話し合い、目標設定している。毎月職員会議で振り返りをし、次月の目標を検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会、芸達者の会にも毎年参加、その他RUN伴等呼びかけがあった際には積極的に参加。来客があった際には和やかな雰囲気ですて迎えられるよう配慮している。	地域のお祭りの御神輿や番楽等が敷地内で演舞披露され、利用者はもとより地域住民や家族の毎年の楽しみとなっている。地区運動会では慣れた手つきで縄ないや、だまこ丸め競争に参加。地域住民からは野菜や花の差し入れがあったり、回覧板を持って行く等、利用者は地域の一員としての活動参加の機会が多く、地域住民と顔の見える関係が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	回覧板を入居者様と一緒に回したり、地域の行事に入居者様と積極的に参加したりしている。地域のお祭りを施設を上げて盛り上げ、地域の方に開かれた施設を目指し、交流する機会を設け、認知症に対する理解を得られるようにしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で話し合った内容は月1回の職員会議で発表され、地域の方やご家族の声としてサービスに反映するように話し合っている。	活動報告や避難訓練、利用料、看取りケア等多岐にわたり話し合いをしている。前回の会議で取り上げられた懸案事項は、進捗状況を報告するように心がけており、1つ1つ積み上げられるように丁寧に対応している。別途徴収していたおやつ代を食費に含んだ料金にすることになったのは、この会議で話し合った結果である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では市の福祉課の方にも参加いただいている。ケアサービスの取り組みや身近な相談へのアドバイスも頂いている。	能代市福祉課及び地域包括支援センター職員が運営推進会議メンバーとなっているため、事業所の運営や実情を把握しており、情報共有ができています。生活保護担当者が来訪した際は、利用者の暮らしぶりを報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	担当の職員を決め、話し合いの機会を持ち会議時に検討、経過を確認している。	毎月の職員会議と一体的に身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束にあたる行為はどのようなのか正しく理解できるように学習している。前回課題にあった安心ベルト着用、ベッド4柵を行っていた対象者2名については行動観察とケアの実践を繰り返し、徐々に拘束時間を減らし、拘束解除となっており、すでに解決していた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関し、会議や申し送り等で話し合うなど防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については必要性を学び、実際に活用できた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際は重要事項説明書に沿って確認しながら説明をし、理解納得に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価を行い、ご家族にアンケートを行っている。玄関には意見箱を設置し、随時確認を行っている。また来設時事務所でお話する機会を設け、意見を伺いケア、運営に活かしている。	面会やモニタリング、電話等の際、家族とコミュニケーションを図りながら、意見を表出できる環境づくりに努めている。また、会話の中から出た利用者の意見は、職員が共有できるように伝達している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送り等で職員の意見を聞く機会を設けている。	年度初めに社長との個別面談や職員会議の他、日常的に職員が意見を言いやすい環境にある。休憩室の間仕切りカーテンの設置や利用者毎のボックスの購入、脱衣室の棚は職員の意見が反映されたものである。また、働き方改革を導入し、職員が子育てと仕事を両立できるよう配慮した勤務形態も初めて導入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議や申し送り等で話し合う機会があり、意見や要望を聞く機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に積極的に参加している。その他外部より研修への参加申し込みなど情報を職員へ公開し参加者を募っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に参加し、ネットワークづくりを行っている。勉強会などにも参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望には常に耳を傾け、本人が望んでいる事や欲しいものは担当者が購入したり時には買い物に出かけたりし、出来る限り耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	毎月和みだより、近況報告をご家族にお送りしている。入居された日はご本人が休まれた後ご家族へ電話連絡し様子を伝えるなど関係づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務の中で入居者様にお手伝いして頂ける事は無理のない程度にお願いし共にやっている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の希望に沿って電話や手紙などでの交流でご家族との関係を大切にしている。また、本人の近況報告を送っている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加、交流を図って頂けるように努めている。またご本人の友人などから面会の希望があった際はご家族に連絡し交流するなどプライバシーの保護にも努めている。	元職場の同僚や兄弟、友人等、市外や県外からも面会に訪れ、楽しいひと時を過ごしている。行きつけの美容院に出かけたり、家族とドライブを楽しんだり、お盆の墓参りを継続している等、これまで培ってきた人や場のつながりの継続が出来ている。地域運動会に参加し、地域住民と交流が深まり、後日お菓子を差し入れてくれる方もいたと伺った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	施設内イベント等は、両棟一緒に行えるよう配慮、交 流している他、普段の生活でもホールに職員を配置し、 交流のお手伝いまた見守りを行っている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォ ローし、相談や支援に努めている	主治医、家族、施設内でのデスクカンファレンスを行 い、家族と話す機会を設けたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望や要望があった場合は耳を傾け、困難な 場合でも月1回の職員会議や毎日の申し送り職員同 士確認している。	入浴時や日常会話の中から思いを把握できるように 努め、外に出たい、草取りをしたい等、即実行でき ることに關してはすぐに対応している。初回面談時 に丁寧に利用者及び家族から聞き取り、介護記録 に記入し、申し送りで職員の情報共有を図っている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 生きがいこれまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	タオルやおしぼりたたみ、新聞たたみ等、負担にな らない程度に手伝っていただいている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	残存機能、健康状態など常に注意し、本人の負担に ならないよう支援している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それ ぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護 計画を作成している	毎月職員会議を開き、入居者様について意見交換 を行っている。毎月、朝と夕に申し送りを行い、情 報共有を図っている。	担当職員が中心となり、状態変化時や2ヶ月毎にモ ニタリングを行い、追加及び変更内容を確認し、職 員会議において、利用者と家族の意向を踏まえ、 原案をもとに意見交換をし、介護計画書を作成して いる。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個 別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実 践や介護計画の見直しに活かしている	朝と夕の申し送りや職員会議で確認し今後の支援 に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回の消防訓練では、地域の消防署にも協力頂いている。毎年の地区祭典では、ホームへ、地元の方が集まってきてくださり、各地区の踊りや神輿などを披露して下さり、皆さん楽しまれている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、歯科医との関係はよく、利用者、家族に説明、納得の上、受診し、適切な医療を受けられるよう支援している。	希望する医療機関に通院介助している。通院困難な場合は協力医の訪問診療を受けられる。また、歯科診療、訪問看護が受けられ、内服に関する不明な点は、薬局に相談する等、適切な医療を受けられる体制が整えられている。受診後は家族の意向に沿いながら、電話や書面にて受診報告をしている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、FAXでの状況報告や電話で指示を仰ぎ、適切な対応ができるよう情報も共有している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は家族、病院との情報交換を密に行い、退院後の受け入れに対しても本人の状態やリハビリ等を見に行くなど情報の交換も出来ている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについて主治医家族、施設との話し合いや意向の確認が都度行われており、本人に寄り添ったケアを行っている。	入居時に看取りに関する指針に沿って説明している。状態に応じて、協力医、家族、事業所で話し合い、意向確認同意書を交わしている。看取りケア開始となつてからは、職員が一丸となつて、利用者が心地よく過ごすために何が出来るのかを検討し、写真を貼ったり、好きな歌を流したりと精神的支援にも力を注いでいる。デスクカンファレンスでは、協力医と家族も参加し、思い出を語りながら故人を偲んでいる。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや連絡網を作成し、目につきやすいように大きく貼っている。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中や夜間帯を想定した避難訓練を行い、職員が動くべき手順を確認している。	年2回の避難訓練を実施している。地域消防団とは協力関係にある。新入職員は自家発電機の操作を習得することになっている。運営推進会議で火災発生場所の変更を提案され、TVの漏電による出火を想定し訓練を実施した。米や缶詰等の食料品の他、プロパンガス、ストーブ2台も備え、寒さ対策にも対応できるようにしている。	非常口2ヶ所が階段で、福祉用具事業所とスロープを検討したが、解決には至らず、苦慮している。既に運営推進会議でも検討を重ねられているので、例えば階段の蹴上を低くする、手すりを設置する、避難訓練時には階段昇降介助をして課題を抽出する等、安全に移動できる手段を具体的に検討することで災害対策の体制整備が更に期待できるものと思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格等をしっかりと把握し、失礼のないように声がけ等を行っている。	トイレ誘導する際は人前であからさまに、トイレの声かけをしないように心がけている。他者に気づかれないように、「うがいを一緒にしましょう」等、自尊心に配慮した声かけをしている。排泄チェック表は見えないように工夫したり、居室を見られたくない方の入口には暖簾をかけたり、入室時にノックをするなど、プライバシーに配慮している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で困っている事などがなく普段から聞くようにしている。何か困っている事等がないか普段から聞くようにしている。何か困っている様子の際はすぐに声がけ、傾聴している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活のリズムを把握しゆっくりと安心して過ごせるよう支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容店、美容室と契約しており、本人と家族の希望で行うことができている。ご家族と協力し季節にあった本人が好む衣類を身に付けられるよう支援している。本人が身だしなみを整えるのが難しい方には適宜介助させていただいている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえなどをお願いし、職員と一緒に楽しみながら行っている。また、地域、家族の方からいただいた物を提供し、季節感を大事にしている。	季節を感じられる献立を心がけ、メニュー係がカロリーを計算している。枝豆のさや取りや山菜の皮むき、食器拭き、下膳等出来ることを行っている。誕生会では好きなものを食べられるように支援している。状態に合わせて、食事形態を刻み食やミキサー食、ムース食に変更し、柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取の工夫をしており、飲み込みが悪い方には、ミキサー食トロミ食など提供し、水分もゼリーやトロミなどで1日の摂取量も記録し支援している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、おやつを食べた後にも水やお茶ですすぐよう努めている。必要に応じて訪問歯科、歯科医院を利用している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、利用者一人ひとりの排泄週間やパターンを職員は共有し把握している。尿意の訴えない利用者には、定期的に案内する事で失敗しないよう配慮している。	オムツを使用している利用者を排泄チェック表をもとにトイレ誘導し、排泄動作を確認しながらリハビリパンツに移行し、オムツ外しに成功した事例があった。自然排便を目標に水分補給の強化、ヨーグルトを摂取する、体を動かす等、便秘解消に努めている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が3日続いたら座薬の使用、また水分を多めにとったり、ヨーグルトを摂取していただくなど、その方に合わせた対応を心がけている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の体調や要望に合わせて、基本週2回のペースで時間を決めず入浴を楽しめるよう支援している。	午後一番にお風呂に入りたい、昼寝をしてから入りたい等、週2回利用者の希望に合わせて入浴支援を行っている。同性介助希望の利用者には対応できている。入浴中は職員と歌ったり、思い出話に花を咲かせたりと楽しい時間を過ごしている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり、日々の状況を把握し、本人の意思も確認しながら、必要性がある時は休息していただいている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録を共有している。薬ケースに薬の情報を添付したり、薬の変更時には、申し送り確認している。また、飲み忘れがないよう、スタッフ2名で確認し合う等対応している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タオルやおしぼりたたみ、新聞たたみ、洗濯物干し、モップがけなど、なるべく役割をもっていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて花見、紅葉ドライブ、買い物ツアー等を行い、気分転換を含め、楽しんでいただけるよう支援している。	近隣のふるさと伝承館や旧小学校等に散歩がてら出かけている。利用者の要望を取り入れながら、空港や道の駅、能代市の花見、紅葉、スーパーへ買い物等外出している。家族と外出することもあり、日常的に外出する機会があり、気分転換となっている。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される方には少量の小銭を管理していただいている。利用者によっては、買い物ツアーや病院受診等の際は本人に金銭を渡し支払ってもらうよう努めている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で家族と連絡を取っておられる方もいらっしゃいます。知人や家族から花や贈り物が届いた場合には、すぐに電話をかけ、お手紙やお祝いカードが届いた場合には利用者の居室の壁や棚に飾るなどしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	小鳥のさえずりや小川のせせらぎのBGMを流したり、季節の飾りつけは各フロアーに入居者が協力して作成した壁画を飾り、短冊などもスタッフと共に制作し楽しんでいただいている。温湿度も常に適温になりよう心がけている。	時や季節を感じられるしつらえになっている。利用者が作成した秋を感じる作品や楽しかった外出の思い出の写真が壁を彩っている。また、ボランティアの絵が月替わりで飾られ、華やかさが増している。日付は利用者の目の高さに合わせ、大きく分かりやすいように配置していた。死角となる居室が観察しやすいようにミラーを設置し、センサーに頼らない環境が音によるストレスにつながらないよう配慮している。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なるべく入居者様同士の間人間関係を苦慮し、座る場所の配置を決めている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の馴染みのある家具や布団、小物(茶碗やお箸等)などはご持参いただき、入居後も随時ご相談しながら意向に沿えるように対応している。	TV、棚、椅子、ちゃぶ台、丹前や布団等、使い慣れた様々なものを持参している。家族の写真やぬいぐるみ、作品を思い思いに飾り、居心地よく過ごせるようにしている。重度化に合わせて電動ベッドのレンタルが可能で、看取り期に対応できる体制が整えられている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアの横には表札を設置している。廊下の動線については危険なものを置かないようにし、入居者様に合わせた模様替えや家具の配置等に配慮している。		